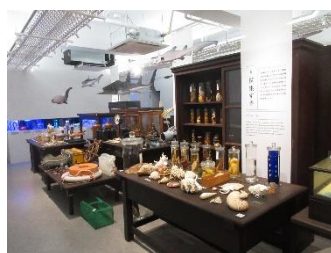


東京大学三崎臨海実験所の新教育棟の見学その1

8日(火)に、中山名向小学校長、長沼指導主事とともに見学してきました。旧教育棟は、海岸の近くにあったのですが、新教育棟は、正門を入れてすぐの左手に建設されました。



展示室の入口には、「MMBS」の文字が掲げられています。これは、旧教育棟からそのまま移したもので、Misaki Marine Biological Station を略したものだそうです。



展示室は「海のショーケース」という愛称で、「はじめに」、「採集」、「観察」、「研究」、「記録」の5つのカテゴリーに分けられた展示が並んでいます。



臨海実験所の初代所長の名がついたミツクリザメの剥製や、貝とり名人として有名な青木熊吉さんのコレクションなどが展示されています。



今の状況のため、見学者に貸し出される冊子は、PPコート紙でできており、アルコール消毒ができるようになっていました。

そのほか、生きたオオグソクムシの水槽やプラスチック樹脂で置き換えた様々な生き物(左の写真)等も展示されています。

コロナ禍のため、一般の公開には、もうしばらくかかるとのことでした。市教研部会等の見学の相談は、下記の電話番号で、担当渋谷までご連絡ください。

SDGsについてその3 「ペタッとSDGs」について

朝日新聞社のNIE事務局から、「ペタッとSDGs 新聞学習ふせん」の体験版を送っていただきました。

SDGsの17のゴールを意識しながら、新聞記事を読んでいき、ふせんに名前とつぶやきを書き込んで貼っていきます。その後、その記事、付箋、つぶやきについてグループで発表し合い、共有していきます。その話し合いの結果を受けて、ふせんを貼りなおしていきます。最後に、全員の付箋を見て、参加者全員で意見を発表し合います。



三浦市では、三浦市の学校教育全体構想でも、「育てたい三浦の子ども像を育むための9つの具体的な取り組みについて、SDGsの視点を踏まえて推進する」と明記しています。市内の学校でも、SDGsについて学習する機会が増えています。

興味がある先生は、下記にご連絡いただければ、資料も差し上げます。ぜひ、積極的にご活用ください。

みうら学・海洋教育に関するお問い合わせは、

三浦市教育委員会まで 882-1111 (内線428)